

あま み 奄美大島の マングース こんぜつせんげん 根絶宣言の お話 ② はなし

エイチツーエー H 2 A ロケットの 49号機が 無事に 打ちあがりましたね。今年度中に引退し、

エイチスリー H 3 ロケットに引き継がれる予定ですが、最後まで事故無く打ちあがって欲しいと思います。

さて、今回は前回に続いて、奄美大島の マングース 根絶宣言についてです。前回の つぶやきをまだ読んでいない、という人は、そちらを読んでからこちらを読むとわかりやすいと思います。

ネズミやハブの 駆除のために 沖縄島や奄美大島に 導入された フイリマングースですが、貴重な 固有種や農作物が被害にあうようになったことから、1993年 から 調査と駆除が開始されたことは前回書きました。

はじめは、林道沿いで 罠などによる 捕獲を行う、一般人による 捕獲に 報奨金を出す、などを 実施していましたが、行動範囲の 小さい マングースの 数を減らすにはあまり 効果が見られませんでした。2005年に 外来生物法が 施行され、特定外来生物に 指定されたことから、マングースバスターズと呼ばれる 駆除のプロ集団を 結成し、本格的に マングースの 駆除を行っていくこととなります。

以降の取り組みでは、林の中に最大で約30000個の罠、400台をこえるセンサーカメラを設置しました。また、マンガースの糞からマンガースがいるかどうかを確かめるマンガース探索犬を使用した探索を続け、2018年に捕獲された最後の1頭までに、32657頭のマンガースを駆除しました。



マンガースを捕獲するカゴ罠（左）と捕殺するつつ罠（右） 写真は環境省

その後、マンガースは1頭も捕獲されることがなく、カメラや探索犬による調査でもマンガースの生息が確認されなくなりました。ある生物が本当に1頭もいなくなったことを確かめるのは非常に難しいのですが、いくつかの方法で根絶できたかどうかの確率を計算したところ、99%前後の確率で根絶されている、という結果が出たため、今回の根絶宣言を出したということになります。



探索犬とハンドラーによるマンガース探索

写真は環境省

駆除を行ってきた期間中、毎年数億円の費用、大量の機材、労力が投入されました。前回も書きましたが、もともと人間が島にマングースを持ち込まなければ必要なかったはずのもので、30000頭以上ものマングースが命を失うこともありませんでした。

もちろん、導入した当時は外来種についての知識も少なく、これほど大きな問題になるとは予想できなかったと思います。私たちに出来ることは、同じようなことが起きないように、外来生物の侵入に目を光らせることです。個人的には、最後まで責任が取れないのであれば、ペットとして持ち込むことも制限、禁止していく方が良いのかな、とも思います。みなさんは、どう考えますか？

24/9/26 (ペットの免許制もあり?) あん Do

参考：

<https://amamishimbun.co.jp/2024/09/03/51996/>

根絶宣言についての奄美新聞社の記事
(歴史年表があります)



https://biome.co.jp/biome_blog_057/

マングースの根絶に関する 2019 年の記事
(株式会社バイオーム)

